

様式1

令和5年度 学校評価表

学校教育目標	自立貢献 ～自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することのできる生徒の育成～		
a ミッション	「生徒や保護者、地域から信頼される学校をつくる。」 生徒や保護者が美木中に来て良かった。行かせて良かった。また、教職員が美木中に勤務して良かったと思える学校にする。 ○知育・徳育・体育のバランスをとり、地域に根ざした教育活動の推進 ○学校教育の信頼性の確保と満足度の向上 ○SSRによる不登校等生徒への働きかけや不登校の未然防止	a ビジョン	・規範意識を身に付け、向上心を持ち、自ら学ぶ意欲的な生徒を育成する。 ・自己を大切にできる生徒を育成する。 ・自己を認識し、将来の夢や目標を立て、その達成に向けて計画ができる生徒を育成する。

尾道市立美木中学校

評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善計画		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
				イ	ロ	ハ								
確かな学力	「主体的な学び」を促す教育活動の工夫を行う。	・教科・領域において、ICT機器を活用した授業づくりに取り組み、授業研究等での実践発表を通して授業力を高める。	教職員 ICTアンケート「生徒がICTを活用する授業を単元毎に1回以上設定している」に回答する教職員の割合	100%	56%		56%	D	①【成果】研究授業や理論研修を通して、ICTを活用していく目的や事例を紹介した。 【課題】取組を行う中で、ICTの活用度合いに差がある。また、教科や単元等によってICTをどのように活用していくか探りながら行っている。	○		これからのグローバル社会において、ICT教育は必要不可欠であり、教職員の方の達成度は低いが、生徒が分かりやすいと感じている事に一定の成果が得られたと思います。	① 引き続き、研究授業等を通して、積極的にICTを生徒が活用できるようなりにしていく。どの授業でも、だれでも簡単に扱えるようなICTの活用方法を考えていく。	
			学校評価生徒アンケート「ICTを活用した授業は、わかりやすい」に肯定的に回答する生徒の割合	85%	93%		109%	A	②【成果】授業の中で、ICTを活用することで、わかりやすいと感じる生徒が増えた。 【課題】生徒は肯定的な評価が高いが、実際の学力向上に十分に結びついていない。				② さらに肯定感を高めるために、生徒の学力に結びつくような効果的なICTの活用方法を考えていく。	
			学校評価生徒アンケート「授業では課題に対して自ら考え、自分の考えを言ったり話したりすることができる。」に肯定的に回答する生徒の割合	85%	78%		92%	B	③【成果】授業の中で、話す・書く等の表現をさせる場を設定することで、考えを表現する生徒が増えた。 【課題】考えを表現する場は増えたが、生徒を客観的に見たときに、積極的に発表しようとしていたり深く考えて表現したりする生徒は少ない。				③ 深く考えることができるような、単元を貫く問いを設定し、生徒自身が主体的に考え、表現できるようにしていく。	
豊かな心の育成	自他を大切にできる生徒を育成する。	規範意識や礼儀など、豊かな心を育成する。	①チャイム前着席の呼びかけと、授業開始時に立腰・黙想を実施し、授業に臨む態度を養う。	学校評価生徒アンケート「授業では、時間を意識してチャイムが鳴る2分前には授業準備をして着席している」に肯定的に回答する生徒の割合	①85%	77%		91%	B	①【成果】2分前着席の声をまずは5月に重点課題として教職員が取り組んだ。その後、6月に生活委員の取組として生徒が中心となって呼びかけを行う中で、少しずつ2分前を意識して取り組む生徒が増えた。 【課題】取組を行う中で、着席を認識して行動できるようになりつつあるが、授業準備等が不十分の生徒もまだ多い。	○	以前に比べ、あいさつをしてくれる生徒が増えたように感じます。	① 2分前着席の徹底と、学習委員等と協力して、2分前着席後に授業準備物の確認や授業の復習を行うなど、2分前に着席する方法を模索する。	
			②自ら進んで気持ちのよいあいさつができるように指導する。また、生徒会を中心に、あいさつ運動を実施することで生徒が進んであいさつを行う習慣を養う。	学校評価生徒アンケート「私は、学校や地域で自分から進んであいさつを行うことができる」に肯定的に回答する生徒の割合	②85%	90%		106%	A	②【成果】生活委員のあいさつ点検などの取組を通して、4月当初よりも自分からあいさつができる生徒が増えた。 【課題】自ら進んで気持ちのよいあいさつを行うことに対する自己肯定感が高いが、生徒が自己を客観的に見た際はまだ自ら進んであいさつを行うことができている。			② 自ら進んで気持ちのよい挨拶を行う例やその姿を生徒・教職員で共通認識し、その実現に向けての取組を考えるなど、生徒が主体となって今の姿からよりよい姿になるような取組を行う。	
			③生徒リーダーを中心として学校行事や地域行事への積極的な参加を行う中で、生徒の自己肯定感と自己有用感を高める。	アセスアンケートの向社会的スキルの項目に肯定的に回答する生徒の割合	③85%	53%		62%	C	③【成果】体育大会やリージャルスキルトレーニング等を通して、生徒のクラスの所属感や自己肯定感を高めることができた。 【課題】生徒リーダーを中心として行事を運営する際の教師の支援や活動後の肯定的評価が不十分な部分もあったため、生徒への支援を充実することに課題がある。			③ 生徒リーダーに対して、リーダーとして活動する際の支援とその後の評価を充実することで、活動への充実感とその後の意欲につながるような指導を行う。	
健やかな体の育成	自己を認識し、自分の将来の夢や目標を持つことができる生徒を育成する。	基本的生活習慣を確立する。 ○三点固定（朝起きる時間、家庭学習時間、寝る時間）の確立	①生徒に自分の日課表を作成させ、生活習慣の定着を図る。	学校評価生徒アンケート「起きる時刻と寝る時刻を決めて、毎日それを守って規則正しい生活を送っている」に肯定的に回答する生徒の割合	①75%	72%		96%	B	①【成果】曜日ごとに日課表をつくらせることで毎日それを守って生活しようと思える生徒が増えた。 【課題】メディア長時間利用、塾や習い事などで帰る時間が遅くなったことが原因で、毎朝眠そうに登校してくる生徒が多い。	○	家庭での生活習慣は、保護者の意識の高さが重要になってくると思われますので、先生だけではなかなか難しいと思います。	① 引き続き曜日ごとに決めた時間を意識して行動できるよう指導を行い、規則正しい生活習慣の確立ができるようにする。	
			②定期的に自分の生活習慣を振り返らせ、規則正しい生活を送ることへの意識を高める。	学校評価生徒アンケート「学年で定められた家庭学習時間を達成することができている」に肯定的に回答する生徒の割合	②75%	61%		81%	B	②【成果】学年ごとに家庭学習時間を定めることにより、学年での自主学習の取り組みには力を入れやすくなった。 【課題】テスト直前の勉強はある程度時間を確保できている生徒もいるが、日々の予習復習などの時間や勉強の仕方を抑えていない生徒が多い。			② 家庭と連携し、提出状況の管理を確実にし家庭学習の時間を確保していく。	

【自己評価 評価】

A: 100% (目標達成)
C: 60% (もう少し) < 80

B: 80% (ほぼ達成) < 100
D: (できていない) < 60

【外部評価】 イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。 ハ: わからない。